

4 | 3 4

1 (表紙)

元文中

御公儀^江御訴詔并竹嶋渡海之次第先規より書附之写

御公儀^江御御訴詔并竹嶋渡海之次第

2 (白紙)

3

元文中

御公儀^江御訴詔并竹嶋渡海之次第先規より之書附之写

伯耆国米子町

大谷政太郎

4 (白紙)

5 (白紙)

6 (白紙)

7

一 大廣院様御代元文中從

御国屋敷河村彦十郎様ヲ以

御公儀^江被為遊御達候ニ付其節祖父

大谷九右衛門事参府仕候条、私~~共~~先祖之者^江

竹嶋渡海之儀被為仰付候次第先規より

書附之写左之通奉指上候、尤右御達之節

願書之写如左

8

此間ニ右之一冊写シ前末相濟

9

此間願書壹通写シ始終相濟

10

右之通御座候

一 日光宮様^江御由緒御^{御座候}附候ニ付^{祖父九右衛門義}北文中

元文中参府仕候節、乍恐

宮様^江御目見口被仰付候事

一 右元文五年^{四月}中祖父之者儀

御公儀^江御訴詔之儀共翌年寛保改元

八月御請披之儀相濟候付、同十二月
廿六日從

1
1

大廣院様

日光宮様江為

御使者蓮花寺五郎八様を以其節從

宮様乍恐私共祖父儀御頼被為思召候趣

紙上

御請被為仰達候、御口上御書附之

写如左北通

1
2

從松平相模守殿

宮様江御請口上之趣

一 此度大谷九右衛門儀

御頼被為遊趣承知

仕畏奉存候

一 九右衛門

1
3

御公儀江御願申上候義も

御座候、此以後右之儀相願候ハ、

役人共評義も仕可遣之由

此義者津田周防より内々ニ而

護法院迄之口上ニ候

十二月廿六日 護法院

右之通ニ御座候

1
4

一 右願書之面ニ書頭候通私共先祖之者より

祖父共節迄

公方様江

御目見江被為仰付候節

御紋之御時服拝領仕候条、尤

太守様江

御目見之節も先祖之者共儀

1
5

御紋衣拝領被為仰附、今以右

御紋衣拝領頂戴仕罷在候、其節
御礼申上^ニ付

志摩様より御書被遣候写、左之通

大屋九右衛門殿 荒志摩

16



今度時服被遣為御礼当地

被参由^{ニ而}前刻^者入来塩鮑

一器給令満足候令他出不能面談候

将又過日^者磯竹百合草并花入

竹給令祝着候、恐々謹言

七月晦日 書印

17

右之通^ニ御座候

一 私^兼祖父之者儀江府^江相詰候節ハ

例月朔^中為御礼

太守様^江

御目見被為仰付候付、其節御役人様より

被遣候御書附之写、左之通

18



大屋九右衛門殿

河村彦十郎

蓮花寺五郎八

其元義明十五日四ッ時

御目見被

仰付候間可被出候、已上

十二月十四日

19



大谷九右衛門殿

河村彦十郎

蓮花寺五郎八

猶以五時前御出可有之候

以上

以手紙令啓達候

明日

以上

御目見被仰付候間

五ツ時御座敷^江可被

20

罷出候、以上

四月十九日

✂

大谷九右衛門殿

河村彦十郎

蓮花寺五郎八

追啓御発駕之節

御門前^江被罷出候旨

21

勝手次第^与被仰出候間

例之通可被罷出候、以上

四月十九日

一

祖父九右衛門儀

御公儀^江御訴詔以後、尤

大廣院様御代延享元年於

22

鳥府乍恐

御在国之節年頭

御目見之儀奉願候處達

御聴、則以御書附願之通被為

仰附候之旨、尤同年子八月廿二日

大和様於御館御役人中様より被

仰渡候趣如左

23

✂

大谷九右衛門殿

牛尾金右衛門

上村惣右衛門

御用之儀有之候間

只今

御館^江可被出候、已上

八月廿二日

✂

大谷九右衛門殿

牛尾金右衛門

上村惣右衛門

24

追^而申入候、此紙面

昨晚可遣之処夜ニ入
候故今日遣候、何分早
御屋敷へ可被出候、以上

八月廿三日

右之通御座候条御書附寧
如左

25

其方儀御在国之

節年頭

御目見願之通被

仰付候

子八月廿二日

右之通御座候

26

一 竹島渡海之船帰着ニ付

右為御礼擎愚札候之処

御披露之為

御返翰從

但馬樣御書被成下候類從

外樣或_者年始御祝書指上候節

27

右御披露之為

御返翰御書被成下候写如左

竹嶋船就帰着

飛脚殊三種

到来之、欣然之

事候、委曲白井

七左衛門可述候也

28

但馬

十一月廿五日 御書印

大屋九右衛門とのへ

年始之為祝詞

飛脚殊煎海鼠

29

到来満足申候

謹言

但馬

正月廿二日 書印

大屋九右衛門とのへ

今度魚問屋役

相務候付以飛脚

30

鴨老番到来

欣然之事候

謹言

荒修理

正月三日

大谷政太郎殿

31

為年始之嘉儀

家来方迄飛簡殊

雉子一番到来

欣然之至候、紙面之趣

念入儀候、謹言

荒修理

32

正月十九日 書印

大谷政太郎殿

為年頭之祝儀

飛脚殊真鴨二到来

心入之段欣然之至候

其元無相替儀之由

33

珍重候、竹嶋松嶋へ

来月末出船之由尤之

事候、謹言

修理

正月十六日 書印

大屋九右衛門殿

34

家来方迄芳札披見

如来意改年之慶事

申弘候、各無異儀

一段之時候、我等^茂堅固

超歲申候、年頭為祝詞

雉子一番被指越欣然之

35

至候、猶追^而可述候

恐々謹言

荒志摩

正月廿日 書印

御書^刪

村川市兵衛殿

大谷九右衛門殿

36

家来所迄芳札令

披見候、弥御無異之由

珍重候、年始為嘉詞

以飛脚一品被相贈之

被入念候段過分之至候

恐々謹言

和田遠江

37

正月廿日 信里 書印

大谷九右衛門殿 書^刪

家来方迄芳札

披見候、如来意改年之

慶事申弘候、各無異儀

一段之時候、我等^茂

38

堅固令超歲候、為

年始之祝詞肴一種

被差越、欣然之至候

猶追^而可述候、恐々謹言

津周防

正月廿四日 御書判

3
9

村川市兵衛殿

大谷九右衛門殿

家来方迄御状令

披見候、改春之慶事

不可有尽期候、此表

無別条候、曆首之為

4
0

嘉詞示殊鮑一折

被相送之入念候段過分

至候、為謝詞如此候

恐々謹言

鵜民部

二月九日 長親御書判

村川市兵衛殿

4
1

大谷九右衛門殿

為年甫之嘉儀

家来所迄示殊鮑

一竈饋給之被入念候段

欣然之事候、為謝礼

如是候、恐々謹言

4
2

荒伊豆

正月十五日 御書印

大谷九右衛門殿

平右衛門様よりハ旧格之通今以年始

御祝書為御返翰私江御書被成

下候之写、如左

4
3

為年甫之嘉詞

家来方迄来札之趣

欣然ニ候、弥無異加年
一段之事候、謹言

平右衛門

正月廿六日 御書判

大谷政太郎殿

44

今般家督為祝儀

肴一種饋給被入念儀

欣然之至候、為謝礼

如此候、恐々謹言

平右衛門

四月廿二日 御書印

45

大谷政太郎殿

書状令披見候弥御無異候旨

珍重事候、平右衛門殿堅固

被居候、然者今般家督

被仰付難有被奉存旨

依之肴一種被差出、則

46

遂披露候所、被入念儀

被存、則被及書中候

恐々謹言

砂川丹治

四月廿二日

大谷政太郎殿

右之通ニ御座候

47

一 酒井讃岐守様より阿倍四郎五郎様_江

先祖之者共出府仕候ニ付被為進候

御手紙壺通如左

安倍四郎五郎様 酒井讃岐守忠勝

人々御中

昨日_者伯耆国町人大屋九右衛門

48

私宅へ参候付御使ニ指添候、右之
九右衛門儀竹嶋へ船を渡候、此頃罷帰候
例公方様江御目見仕候由、令得其意候
随而貴殿儀炎天之節毎日御普請場へ
御出候儀御大義と存事候間何も期面
上之節候、恐々謹言

49

八月十五日

一 長谷川正悦様より私先祖之者出府仕候節
為御礼仕手紙壱通如左

大屋九右衛門様 長谷川正悦

尚々昨晩去方へ振舞ニ参候間

不懸御目千万御残多存事候、為御礼
如此御さ候、不及御報候、以上

50

一 昨日首尾能御目見目出度

存事候、依之昨日者私宅へ御出

殊うねさし足袋五足預

御持参却而痛入申候、併御心入之程

忝存候、猶近日御暇出可申候間、其

刻面上御礼旁可申述候、恐々

51

謹言

七月晦日 書印

一 大久保和泉守様より之御状上三通如左

是より右三通御認可被遣候

52

一 阿倍四郎五郎様より被下候御状四通如左

右四通御認可被下候

右書北通候通ケ様之御状等ハ数通御座候

53

一 竹嶋渡海之船帰帆之節朝鮮國へ

漂流仕、其後帰朝候趣從

内匠様坂川分左衛門様大脇多左衛門様^江
被為仰進候御書壺通并阿倍様より
其節被遣候御状壺通如左

54

一筆申入候、大屋九右衛門
当夏磯竹^江渡候船之

内一艘朝鮮國^江被放

船^者破損候へとも人へ損

不申釜山海より宗

對馬殿より殿様大坂

55

御藏屋敷迄申来候由より

右之様子對馬殿より

言上之上を以重^而

御左右可有之と聞へ

申候間追付様子可

相聞候、無異儀罷

戻り候^而可在之候、右之

56

者共妻子行末不存

歎居可申候間、右之趣

被仰聞候ハ、安堵可申候

此通大屋へ可被申渡候

恐々謹言

荒近江

十一月廿二日 ^{御判}書印

57

坂川分左衛門殿

大脇多左衛門殿

尚々其元無事候由

珍重存候、以上

過七日之御状披見、然^者

竹嶋へ渡候其方船

58

朝鮮國釜山海_江流

され破損荷物も悉

減少之由然とも船頭

水主無恙對馬_ニ有之由

到来候へとも從對馬殿

江戸_江被致住進之

彼使義帰次第荷物も

59

水主共も帰候可有之由

紙面令承知候、對州

より右之者共帰参

次第様子聞届

江戸_江可被致参府候旨

一段尤候、殊_ニ雲州

とも嶋鯽_ニ喉饋給

60

過分之至候、我等儀無事

御用仕廻今日_ニ至

伏見一宿明日令上京

直_ニ江戸_江可罷下候

来春参府致候ハ、其節

可申承候、恐々謹言

61

阿倍四郎五郎

十二月十三日 政重判

大屋九右衛門様

御返答

右之通_ニ御坐候

62

十一 御入国

一 御入国已来尤私共祖父之者迄

例年竹嶋渡海仕候節

鳥府御用之趣以御注文被

仰付候所之書付并御用之品々被

召上候節御小目錄被成御渡候

ケ様之類も数多所持仕候處

6
3

及焼失申候、尤相残候御書附之写
如左

此間三通相済

一 竹嶋渡海之間道具蒙御免候之品_者

鑓三筋鉄鉋拾挺尤船壹艘之節

五挺渡海之節彼嶋へ持参仕候、然ル所

6
4

元禄年中渡海御制禁被仰出候_{ニ付}

鉄鉋之義ハ米子表御城内御蔵へ

相納り候、鑓之義ハ今以所持仕罷在候

6
5

一 元文中祖父大谷九右衛門儀

御公儀_江御訴詔申上候_ニ附其節

御奉行様方_江被召出候次第委細之儀ハ

別_ニ自分日記御座候、以上

一 申四月十七日牧野越中守様御差紙を以

明十八日四ツ時御屋敷へ九右衛門罷出可申_与

被為仰附候、右御請書差上、随_而

6
6

十八日四ツ時_ニ参上仕相窺罷在候得共

御奉行様方例月之通御寄合被為成

諸願之御吟味相始り九右衛門義被為召出

則御奉行様方御座席之次第

一 牧野越中守様

一 本多紀伊守様

6
7

一 大岡越前守様

一 山名因幡守様

右之通御連座被為成候、御次之間

御家々之御下役人衆中様方御連座

被成其次之間_{ニ而}九右衛門奉指上候御願書

御役人様御持出被成候_而

6
8

御奉行様方御前_{ニ而}御読上被成相終り

其上^{ニ而}越中守様被為成御意候趣
九右衛門竹嶋之支配を誰か致候哉と
御尋被為成候、随^而御請申上候竹嶋
御支配之儀^者先祖之者共相蒙私共迄も
支配仕来り候由申上、則御奉行様方
御一同^{ニ夫者}重キ事哉^与御意被為成候
次^ニ御尋之趣竹嶋松嶋両嶋渡海

6
9

御制禁被為仰出候以後^者御領主より
御憐愍を以渡世仕罷在候、願書^{ニ書}
頭候段、然ハ扶持杯請申候哉^与御意被
為成候、随^而申上候御扶持^{ニ而ハ}無御座候
御憐愍を以て書上候義ハ[■]

(貼紙)

「竹嶋渡海御制禁後相失家業
勝手向必至難洪仕候、依之雲州
類之者方^江引越養育^ニ預度之旨」

7
0

奉窺候處、此段御差留被遊
御領主様より勝手取続料米子^江

入込候魚鳥口錢取私^江忝人之家録
被為仰付置候、右以御憐愍渡世を送
候義も[■]乍恐

御公方様^口御余光と奉存上御恩賜
之程冥加至極難有仕合奉存候

7
1

之^{言上}申上仕候、則御領主様より家録被為仰付候
節米子表御奉行様方へ被為仰付候
御直書之写如左

- 一筆申入候
- 一 大谷九右衛門義我等へ
目見候節此以後
村川市兵衛^江可被指

7
2

出候、尤九右衛門へも
此旨可被申聞候

一 魚問屋兩人

先達_而追_而赦免

可申旨申入候通

兩人共被差免

村川市兵衛塩口錢

7
3

取之通此已後九右衛門

一人_ニ申付候間此旨

可被申渡候、委細

村瀬新右衛門口上申入之通候

恐々謹言

荒近江 御在判

七月十四日

7
4

益田権九郎殿

村井権兵衛殿

右之通御座候

7
5

右_著元文寛保之際

御公儀_江御訴詔之御請并竹嶋渡海

制禁之後享保九年甲辰四月

御公儀御尋之儀_ニ付、委細御請書仕

鳥府表_江差上之候、因茲右祖父九右衛門事

元文五年四月参府御訴詔之趣

自分日記別_ニ御座候、尤右延享元年より

当時天明六年迄四拾弍年_ニ相成申候、已上

7
6

伯耆国米子町人

天明六年丙午二月日_何

大谷政太郎

7
7

(白紙)

7
8

(白紙)